

## オウトウ(桜桃)のカルテック施肥例

(10アール当り)

時期	目的	資材と施用法
(6月下旬 ～7月始め) <b>収穫直後の 礼肥</b>	<p>根の活力強化、樹勢を早急に回復させ、秋の養分蓄積、枝・花芽の充実をはかります。</p> <p><u>ここが非常に大切な時期です。</u></p> <p>秋3ヵ月間の体力を支える肥料ですから、20kgずつ施すことをお勧めします。</p>	<p><b>収穫直後に、濃縮酵素液</b> 2リットル(～5リットル)を 適宜薄めて(300倍前後) タップリと 灌水。…秋根を伸ばして養分蓄積へ。または 500 倍で葉面散布(特に葉が薄いか、傷んでいる場合)</p> <p>上記より7日～14日おき(7月中下旬)、必ず土を掘って根が伸びている状態を確認し、かつ土のpH・ECを測定してから、礼肥として、下記3種を同時に散布します。</p> <p><b>硫安</b> 10kg ～20kg <b>畑のカルシウム</b> 10kg ～20kg</p> <p>※7月後半～8月の花芽分化期には、樹勢があり、かつ、カルシウムが効いた状態にしておく事が大切です。 原則として必ず、硫安とカルシウムを同量・同時に施す。 カルシウムによって秋の養分蓄積、枝の充実が進む。 ※硝酸のようなデンプンを消費させる肥料は絶対に不可。</p>
(11月～12月) <b>元肥</b> (地力作り)	<p>翌春の基礎を作る栄養の準備(普通は12月の休眠期に)</p> <p>※11月の落葉期に施すと、動いている根が吸収し、凍害に強くなる。特にカルシウムが効果的。(N過多はダメ)</p>	<p><b>ラクト・バチルス</b> 600g …深層まで排水・通気の良い土に</p> <p><b>有機物・堆厩肥</b> 1～2トン (または米ヌカ 150kg 以上)</p> <p><b>硫安</b> 60kg [佐藤錦・基準]</p> <p>※特に痩せ地で有機物が不十分なら 硫酸カリ20kg 追加。 ※有機配合肥料を使う場合は NPK=12-2-5kg 程度。</p> <p><b>畑のカルシウム</b> 30kg</p> <p>※カルシウム栄養は、合計量で 硫安と同量をしっかり投入するのですが、半量は春先にまわすのが効果的です。 ※土壌pH: 5.8～6.5に。</p> <p>上記4種を同時に施して、耕します(土と軽く混ぜる)。 施肥位置は 根の届く先の遠くまで均一に。</p>
(4月) <b>春根が動く</b>	<p>根の動きは前年の樹の体力によります。必ず掘って見て下さい。普通は施肥しない時期ですが、ここが大事!</p>	<p>(4月始めから) 春根がしっかりと伸びて活動していること。</p> <p><b>濃縮酵素液</b> …根を強く動かし発芽・開花を促進</p> <p><b>畑のカルシウム</b> 30kg …開花を強く、着果を確実に</p> <p>※もし元肥時に不十分なら、硫安 20kg追加。 ※4月中旬に土のpH・ECを測って調節すること。</p>
(4月下旬～ 5月上旬) <b>発芽・開花期</b>	<p>発芽・開花は短期間に一気に起ります。樹の状態をよく観察できる時期です。</p>	<p>【花芽の特徴】花の主体は、2年枝(前々年枝)の中部に着いた花束状短果枝の、頂芽だけ葉芽、腋芽が全て花芽。1花芽に3～6個、花だけが着く(純生花芽)。つまり前年枝に着果する訳なので、前年の栄養状態が非常に大きく影響します。 1年枝(前年伸長枝)の基部の花芽は、秋の枝がよほど充実していなければ弱い。礼肥のカルシウムが効けば かなり強い。</p>
(5月後半～ 6月) <b>肥大・成熟期</b>	<p><b>葉面散布</b></p> <p>500倍で、樹勢を見ながら調節</p>	<p>開花(受粉)10日後、<b>濃縮酵素液</b> …果実細胞肥大の促進</p> <p>収穫25日前、<b>カルテックCa液状</b> …果実への転流促進</p> <p>収穫15日前、<b>カルテックCa液状</b> …成熟促進</p> <p>(開花(受粉)～成熟の日数は 中生種で40日)</p> <p>※雨水が果皮の気孔から入って実割れを起すのを避けるために「雨よけ」被覆。カルシウムは裂果を減らします。 また灰星病や果実腐敗を蔓延させません。</p>